學仙不成

〔懷風藻〕五言遊吉野二首○藤原史

飛文山水地、命爵薜蘿中、漆姫控鶴擧、柘媛接莫通、

〔今昔物語二十〕女人依心風流得感應成仙語第四十二

今昔、大和國宇陀ノ郡ニ住ム女人有ケリ、本ヨリ心風流ニシテ、永ク凶害ヲ離レタリ、七人ノ子生セリ、家貧クシテ食物无シ、然レバ子供ヲ養フ便无シ、而ルニ此女日々ニ沐浴シ、身ヲ淨メ綴ヲ著テ、常ニ野ニ行テ菜ヲ採テ業トス、又家ニ居タル時ハ家ヲ淨ムルヲ以ヲ役トス、又菜ヲバ調ヘ盛テ、咲ヲ含テ人ニ此ヲ令食ム、此ヲ以テ常ノ事トシテ有ケル間ニ、其女遂ニ心直ナル故ニ、神仙此レヲ哀ビテ神仙ニ仕フ、遂ニ自然ラ其ノ感應有テ、春ノ野ニ出テ菜ヲ採テ食スル程ニ、自然ラ仙草ヲ食シテ、天ヲ飛ブ事ヲ得タリ、心風流ナル者ハ佛法ヲ不修行ト云ヘドモ、仙藥ヲ食シテ此ク仙ト成ケリ、此レヲ服仙藥ト云フナルベシ、心直クシテ仙藥ヲ食シツレバ、女也ト云ヘドモ、仙ニ成テ空ヲ飛ブ事如此シ、然レバ人猶心ヲ風流ニシテ、凶害ヲバ可離也トナム語リ傳ヘタルトヤ、

〔兎園小説十〕濃州仙女　輪池○屋代弘賢

大垣領にや、北美濃越前境にもや、根尾野村山中に、仙女住居申候、初には齋藤道三の女子なりと申傳へ候所、さにはあらで、越前の朝倉が臣の妻、懷妊の身にて、朝倉沒落の時、山中へのがれ、女子を出産せし、其女子幽谷中にて成長し、今年は二百六十歳計、顏色は四十歳の人と相見え申候、髮はシユロの毛の如しと申候、寫眞も不遠來り可申存候、詳なる事は未だ所々水災にて、誰も〳〵途中の決口を恐れ、得往觀不申候也、奇なる事に候、

九月○文政八年四日

右尾張公倫官秦鼎手簡なり

〔類聚國史六十六人〕弘仁十三年八月癸酉、相摸守從四位下藤原朝臣友人卒、右大臣贈從一位是公之